



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙ほか. 防虫科学 1973, 38(2)

ISSUE DATE:

1973-05-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/158794>

RIGHT:

# 防虫科学

季刊

第 38 卷—II

## 原 著

10. 粒剤の天敵に対する食物連鎖毒性  
桐谷圭治・川原幸夫……69
11. Pyridafenthion, *O*, *O*-Diethyl-*O*-(3-oxo-2-phenyl-2*H*-pyridazin-6-yl)  
phosphorothioate のマウスおよびラットにおける代謝  
宇田川隆敏・斎藤哲夫・宮田 正……75
12. マウスにおける NS 2662 の代謝  
宮田 正・斎藤哲夫……81
13. NS 2662 中毒マウスのコリンエステラーゼ阻害と脳内アセチルコリン含量の変化  
宮田 正・斎藤哲夫・弥富喜三……86
14. NS 2662 中毒ワモンゴキブリ体内およびマウス脳内遊離アミノ酸含量の変化  
宮田 正・斎藤哲夫……92
15. 殺ダニ剤 Proclonol の果実および動物体残留性  
中村利家・安藤 満・玉利春江・松林英子・内山 充……99
16. 5-Alk-2-enyl 置換 Furfuryl および 2-Thenyl Chrysanthemates の合成と殺虫効果  
増田 馨・林 晃史・野田克巳・会田真言 ……106
17. 鳩間島, 父島および台湾産イエバエの殺虫剤に対する感受性について  
林 晃史・向 暁・篠永 哲・加納六郎 ……112

## 綜 説

日本における微生物殺虫剤の開発

鮎沢啓夫 ……114

## 抄 録

……91, 113

財団法人 防虫科学研究所

京 都 大 学 内

昭和 48 年 5 月

# 防 虫 科 学

## 編 集 委 員

主 幹 武 居 三 吉

藤 田 稔 夫 深 海 浩 井 上 雄 三 石 井 象 二 郎

中 島 稔 高 橋 史 樹 高 橋 正 三 内 田 俊 郎

## 投 稿 規 定

1. 防虫科学に関する研究論文、綜説ならば誰でも投稿できる。ただし原稿の取捨は編集委員会できめる。また原稿の字句については加除修正を行なうことがある。
  2. 論文は邦文または欧文とし、邦文には欧文の、欧文には邦文の要約を添える。表題、著者名および所属機関名などは邦文・欧文両者を併記する。
  3. 邦文原稿は原則としてA4判横書原稿用紙(400字詰)を用いる。欧文はタイプライター用紙にタイプライターでダブルスペースに打つ。邦文原稿の写真、表および図の説明は欧文とする。
  4. 邦文は平かな、新かな使いとし、欧語音読には片かなを用いる。ただし物質名、人名などは欧文のままとする。図は白紙または青線方眼紙にていねいに墨書し、原稿とは別紙とする。不完全な図はトレーシング費用を負担してもらうことがある。
  5. 動植物の学名の下には\_\_\_\_\_を付ける(例: *Chilo suppressalis* イタリックとなる)。和名は片かなを用いる。数字はすべてアラビア数字を用い、数量の単位はメートル法による。単位および術語の略字は本既刊誌を参照されたい。
  6. 句読点、カッコは1画を与える。ハイフンは区画の罫線の上に明瞭に書く。本文中の引用文献番号はカッコを付けて肩に小さく書く。文献は論文の最後に通し番号の順に列記し、著者名、雑誌名(書名)、巻、頁、年号の順に記し、巻数には\_\_\_\_\_を付ける(例: (1) Stevenson E. and G. R. Wyatt: *Archs. Biochem. Biophys.* 99, 65, 1966)。邦文雑誌名は日本化学総覧、欧文雑誌名は Chemical Abstracts, Biological Abstracts の規定の略名に従う。
  7. 校正は原則として初校に限り著者が行なう。
  8. 別刷は50部贈呈する。それ以上の希望数に対しては50部を単位とし、実費を申受ける(当分刷上がり1頁6円の計算による)。
  9. 原稿の送付には送状を付し、送年月日、連絡先、原稿枚数、写真および図・表数、別刷希望数などを記入する。原稿の郵送は書留とし、校正は速達とする。
- 投稿その他の編集に関する連絡は下記にされたい。

606 京都市左京区北白川 京都大学農学部  
農薬研究施設 石井象二郎 (075) 751-2111 内 6 3 0 5

## 賛 助 会 員

小 林 政 株 式 会 社  
三 共 株 式 会 社  
住友化学工業株式会社

大日本除虫菊株式会社  
武田薬品工業株式会社

## 維 持 会 員

アース製薬株式会社  
宇部興産株式会社  
大阪化成株式会社  
大塚製薬株式会社  
科研化学株式会社  
化研工業株式会社  
花王石鹼株式会社  
協和醗酵工業株式会社  
キング化学株式会社  
クミアイ化学工業株式会社  
呉羽化学工業株式会社  
サンケイ化学株式会社  
三洋化成工業株式会社  
塩野義製薬株式会社  
大正製薬株式会社  
高砂香料工業株式会社  
株式会社立石春洋堂  
トモノ農薬株式会社

長岡駆虫剤製造株式会社  
長瀬産業株式会社  
日産化学工業株式会社  
日本化薬株式会社  
日本曹達株式会社  
日本特殊農薬製造株式会社  
日本農薬株式会社  
フマキラー株式会社  
北興化学工業株式会社  
三笠化学工業株式会社  
三菱瓦斯化学株式会社  
八洲化学工業株式会社  
株式会社柳本製作所  
山本農薬株式会社  
吉富製薬株式会社  
ライオンかとり株式会社

(五十音順)

昭和48年5月25日印刷 昭和48年5月31日発行

防虫科学 第38巻-II 定価 ¥ 800.

個人会員年1500円 団体会員年3000円 外国会員年U.S. \$6

編集者 藤田 稔夫 石井象二郎  
606 京都市左京区北白川 京都大学農学部

発行所 財団法人 防虫科学研究所  
京都市左京区北白川 京都大学農学部内  
(振替口座・京都5899)

印刷所 昭 和 印 刷  
京都市下京区猪熊通七条下ル

# “SCIENTIFIC PEST CONTROL” BOTYU-KAGAKU

Bulletin of the Institute of Insect Control

Editor Sankichi TAKEI

Editorial Board

Toshio FUJITA, Hiroshi FUKAMI, Yuzo INOUE, Shoziro ISHII,  
Minoru NAKAJIMA, Fumiki TAKAHASHI, Shozo TAKAHASHI, Syunro UTIDA

## CONTENTS

### Originals

10. Food-chain Toxicity of Granular Formulations of Insecticides to a Predator,  
*Lycosa pseudoannulata*, of *Nephotettix cincticeps*.  
Keizi KIRITANI and Sachio KAWAHARA.....69
11. Metabolism of Pyridafenthion, *O*, *O*-Diethyl-*O*-(3-oxo-2-phenyl-2*H*-pyridazin-  
6-yl) phosphorothioate, in Mouse and Rat.  
Takatoshi UDAGAWA, Tetsuo SAITO and Tadashi MIYATA.....75
12. Metabolism of NS 2662 in the Mouse.  
Tadashi MIYATA and Tetsuo SAITO.....81
13. Cholinesterase Inhibition and Change of Acetylcholine Content of the Brain  
in NS 2662 Poisoned Mouse.  
Tadashi MIYATA, Tetsuo SAITO and Kisabu IYATOMI.....86
14. Change in Free Amino Acids Contents in the Cockroach and the Brain  
of the Mouse Poisoned with NS 2662.  
Tadashi MIYATA and Tetsuo SAITO.....92
15. Residues of the Acaricide Proclonol in Fruits and Animal Tissues.  
Toshiie NAKAMURA, Mitsuru ANDO, Harue TAMARI, 99  
Eiko MATSUBAYASHI, and Mitsuru UCHIYAMA.....
16. Synthesis and Insecticidal Activities of 5-Alk-2-enyl Substituted Furfuryl and  
2-Thenyl Chrysanthemates.  
Kaoru SOTA, Akifumi HAYASHI, Katsumi NODA, Makoto AIDA.....106
17. Sensibilité aux insecticides de la Mouche domestique d'origine de Hatomajima,  
de Titijima et de la Formose.  
Akifumi HAYASHI, Satoru MUKAI, Satoshi SHINONAGA et Rokuro KANO.....112

### Review

Development of Microbial Insecticides in Japan.

Keio AIZAWA.....114

### Abstracts

.....91, 113

---

Published by  
THE INSTITUTE OF INSECT CONTROL  
Kyoto University  
Kyoto, Japan